平成 30 年度 日韓文化交流基金 事業実績

一般会計

1. 自主事業

（1）第 34 回日韓文化交流基金韓国訪問団

（日程）

平成 30 年 9 月 18 日（火）	ソウル到着 趙顯（チョ・ヒョン）外交部第 2 次官表敬 李洪九（イ・ホング）韓日文化交流基金会長主催歓迎晩餐会
9 月 19 日（水）	ソウルジャパンクラブ役員との朝食懇談会 国際教育院　宋基東(ソン・ギドン)院長表敬 第 19 回日韓文化交流基金賞贈呈式 小野団長主催レセプション
9 月 20 日（木）	金大中図書館見学 姜昌一韓日議員連盟会長表敬 仁川市内見学 韓国日研訪問
9 月 21 日（金）	日韓文化交流基金フェローOB・OG との昼食懇談会 帰国

（2）第 19 回日韓文化交流基金賞

文化及び芸術分野の交流を通じて日韓間の友好親善に寄与した韓国人を表彰するもの。30 年度の受賞者は下記の 3 名。

李康民（イ・ガンミン）漢陽大学校日本学科教授、日本学国際比較研究所所長

韓国内の日本関連学会の会長等要職を歴任し、韓国での日本研究の発展・進化に貢献。また「（第 3 期）日韓・韓日文化交流会議」においては韓国側事務局長として、両国間文化芸術交流の促進、韓国での日本文化理解の増進に寄与。

朴承柱（パク・スンジュ）大邱ハル代表

代表を務める日韓交流センター「大邱ハル」において、多様な交流イベントを実施、日本留学希望者へのアドバイスを行う等、大邱・慶尚北道地域の日韓交流、相互理解、日本語教育の促進に大きく貢献。

申尚穆（シン・サンモク）コラムニスト、きり山本陣代表

外交官としての体験に基づき、日本の文化・歴史を紹介する単著やコラムを通じて日本理解の増進に寄与しているほか、‘日本うどん’専門店のオーナーに転身、韓国社会への日本の食文化の伝播にも貢献。

2. 賛助会員制度

（1）加入（会費：一口 1 万円）の状況（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

種別（年会費）	人数/法人数	口数	金額
特別会員（3 口以上）	4 名	12 口	120,000 円
個人会員（1 口以上）	59 名	62 口	620,000 円
法人会員（5 口以上）	2 団体	15 口	150,000 円
計	63 名 2 団体	―	890,000 円

（平成 31 年 3 月 31 日有効会員）

特別会員（五十音順）

小野正昭（3）　金春美（3）　楢崎正博（3）　渡辺浩（3）

計 4 名

個人会員（五十音順）

青野正明	朝倉敏夫	阿部孝哉	安倍誠	飯島渉
李炯喆	石川武敏	磯崎典世	稲葉真岐子	林在圭
内田富夫	梅田博之	及川俊男	大竹洋子	生越直樹
河村建夫	菅野修一	姜英淑	木畑洋一	木宮正史
小林直人	小針進（2）	高麗文康	坂井俊樹	阪田恭代
櫻井浩	酒勾康裕	佐藤俊行	鮫島章男（2）	澤岡泰子
宍戸秀行	柴公也	社会福祉法人陽清学園　柴田昌子	上保敏	白川豊
高田加代子	田中正敬	都恩珍	中尾美知子	中塚明
中山めぐみ	西澤豊	芳賀徹	波田野節子	墨の美術館 濱﨑道子
浜之上幸	日本民芸館館長 深澤直人	福原裕二	藤田昭造	藤本幸夫
堀泰三	前田二生	馬定延	松井貞夫（2）	實生泰介

茂木敏夫　　山根真理　　余田幸夫　　和田とも美

計 59 名

法人会員（五十音順）
　学校法人城西大学（10）
　和光物産株式会社（5）

計 2 団体

（2）会費収入の使途
【講演会】
（ｉ）日韓関係に関係する専門家による講演会を開催した。
・平成 30 年 7 月 12 日 参加者：36 名
「両班幻想 ー韓国近世史の現場を歩くー」
（講師：吉田光男　東京大学名誉教授・放送大学名誉教授）
・平成 31 年 1 月 22 日 参加者：39 名
「文化と文明　わかり合えないことからー」
（講師：平田オリザ　劇作家・演出家・劇団青年団主宰）

（ⅱ）【学術定期刊行物助成】
当基金学術定期刊行物助成事業の対象刊行物 2 点に対する助成金（400,000 円）として活用した。

書名	申請団体
『韓国朝鮮の文化と社会　第 17 号』	韓国・朝鮮文化研究会
『現代韓国朝鮮研究　第 18 号』	現代韓国朝鮮学会

3. 外務省からの受託事業

行事名	開催日	会 場
講演会「歴史家の誕生」	平成30年11月16日	東京・ホテルサンルート有明
第18回会議 「国際関係ーその歴史的考察」 参加者：日本側 18名　韓国側 9名	平成30年11月17日 ～11月18日	東京・ホテルサンルート有明

第 1 特別会計

1. 日韓知的交流事業

（1）助成事業
（ｉ）草の根交流　　合計　6 件

No	事業名	申請団体	実施期間
1	朝鮮通信使祭りにおける日韓交流演舞	はなこりあ	平成 30 年 5 月 3 日～5 月 7 日
2	日韓青少年交流訪韓団	日韓親善協会中央会	平成 30 年 7 月 22 日～7 月 27 日

3	日韓学生未来会議（Japan Korea Students Future Forum）	第 13 回日韓学生未来会議	平成 30 年 8 月 5 日～8 月 10 日
4	日韓のことばを学ぶ中高生交流プログラム 2018－SEOUL でダンス・ダンス・ダンス	公益財団法人 国際文化フォーラム	平成 30 年 8 月 7 日～8 月 12 日
5	「日韓交流おまつり 2018 in Seoul」徳島市阿波おどり派遣事業	阿波おどり振興協会	平成 30 年 9 月 8 日～9 月 10 日
6	「日韓交流おまつり 2018 in Seoul」亀鶴屋派遣事業	亀鶴屋	平成 30 年 9 月 8 日～9 月 10 日

（ⅱ）シンポジウム・国際会議　　合計　2 件

No	事業名	申請団体	実施期間
1	福岡-釜山の交流拡大に向けたシンポジウム～日韓シンクタンク合同成果報告会	公益財団法人 九州経済調査協会	平成 30 年 5 月 30 日
2	日韓次世代学術フォーラム 第 15 回国際学術大会	日韓次世代学術フォーラム	平成 30 年 6 月 29 日～7 月 2 日

（ⅲ）芸術交流　　合計　5 件

No	事業名	申請団体	実施期間
1	東京デスロック+第 12 言語演劇スタジオ『가모메カルメギ』	一般社団法人 unlock	平成 30 年 6 月 20 日～7 月 9 日
2	演技集団朗・劇団マシル合同ワークショップ	演技集団 朗	平成 30 年 7 月 15 日～7 月 23 日
3	「バリ姫神話」日韓共同舞台製作プロジェクト	シルクロード能楽会	平成 30 年 9 月 4 日～9 月 9 日
4	福岡インディペンデント映画祭 2018	福岡インディペンデント映画祭実行委員会	平成 30 年 9 月 6 日～9 月 11 日
5	日韓交流事業「韓国版・土管」	劇団 B 級遊撃隊海外制作部	平成 30 年 10 月 6 日～10 月 18 日

(2) 学術研究者交流

（ⅰ）招聘　　合計　6 名

No.	氏 名	研究テーマ	受入機関	期 間
1	李 鋌	高齢・低成長時代の労働法の課題と展望－日韓比較労働法の視点から－	東京大学大学院法学政治学研究科	平成 30 年 4 月 1 日～8 月 31 日
2	鄭志允	東アジアの木塔の寸法体系と造営技術に関する研究	東京大学大学院工学系研究科	平成 30 年 4 月 1 日～9 月 30 日

3	玄在煥	冷戦期韓国の遺伝学研究と日本の遺伝研究ネットワークの相互作用に関する研究	東京理科大学工学部	平成 30 年 6 月 17 日～8 月 4 日
4	裵銀貞	「受動動詞+デアル」文を中心とした結果相のアスペクト表現の総合的考察	福岡女子大学国際文理学部	平成 30 年 7 月 23 日～平成 31 年 1 月 22 日
5	金善花	日韓宮廷文学と教育－「后がね教育」に注目して－	鶴見大学文学部	平成 30 年 8 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日
6	呉永台	幕末維新の政治変革と熊本	東京大学大学院総合文化研究科	平成 30 年 8 月 1 日～平成 31 年 1 月 31 日

（ⅱ）派遣　　合計　1 名

1	伊藤弘太郎	韓国防衛産業に関する研究－冷戦以後の韓国国防政策の変化を中心に－	高麗大学校－民国際関係研究院	平成 30 年 8 月 1 日～9 月 12 日

(3) 発信力を有する知日・知韓家育成事業

（ⅰ）招聘　　合計　3 名

No.	氏 名	研究テーマ	協力者在籍機関	期間
1	李成権	日韓関係発展のための政治・経済人の交流方案	神戸学院大学	平成 30 年 8 月 20 日～10 月 18 日
2	吉炡宇	朝鮮半島と東北亜地域の持続的平和のための日本の役割	政策大学院大学	平成 30 年 9 月 6 日～11 月 4 日
3	陳昌洙	日韓関係の現況と方向	早稲田大学	平成 30 年 11 月 15 日～平成 31 年 1 月 13 日

（ⅱ）派遣　　合計　2 名

1	大貫智子	韓国における対北朝鮮観の変化	朝鮮日報社	平成 30 年 12 月 25 日～平成 31 年 1 月 7 日
2	吉田美智子	韓国の外国人労働者の受け入れ政策	全北大学校	平成 31 年 2 月 16 日～3 月 16 日

(4) 「日韓パートナーシップ宣言」20 周年記念事業

（ｉ）日韓文化・人的交流推進に向けた有識者会合

外務大臣の諮問機関「日韓文化・人的交流推進に向けた有識者会合」は、6 人のコアメンバーとテーマごとのゲストメンバー（計 11 人）が 3 回にわたり議論。10 月 3 日の 4 回目の会合で、河野外務大臣に提言「文化・人的交流のための『日韓モデル』の推進を」提出。10 月 29 日には、ソウルで韓国側の有識者会合「韓日文化・人的交流活性化タスクフォース」との合同会合を開催。

第 1 回	8 月 10 日	テーマ：文化交流
第 2 回	8 月 30 日	テーマ：観光・人的交流
第 3 回	9 月 14 日	テーマ：食とスポーツ交流
第 4 回	10 月 3 日	提言の提出

（ⅱ）「『日韓パートナーシップ宣言』20 周年記念シンポジウム」（10 月 9 日；於東京）の開催に協力。同シンポジウムには安倍総理大臣が来賓として出席。

2. 情報広報事業

(1) 広報誌

日韓文化交流基金ＮＥＷＳ　86、87、88、89 号を刊行

(2) ウェブサイト

基金のウェブサイトを運営し事業の広報・情報提供を行っている。合わせて「日韓文化交流カレンダー」を掲載し、日本で開催される日韓文化交流関連イベントの紹介を行っている。

年月		ユーザー数	ページ/セッション*1	新規訪問の割合（%）
平成 30 年	4 月	2442	3.17	59.48
	5 月	2988	3.03	57.79
	6 月	3913	2.71	63.25
	7 月	2675	3.10	55.38
	8 月	2271	3.03	60.31
	9 月	2212	3.22	60.84
	10 月	3418	2.93	60.39
	11 月	3496	3.20	55.81
	12 月	2304	3.31	47.48
平成 31 年	1 月	2062	3.50	53.14
	2 月	1811	3.27	60.26
	3 月	1887	3.10	54.68

*1　ページ/セッション：セッション中に表示された平均ページ数。同じページが繰り返し表示された場合も集計される。セッションとは期間内の合計セッション数で、ユーザーがウェブサイトやアプリなどに積極的に関わっている期間を指す。すべての使用状況データ（スクリーン ビュー、イベント、e コマースなど）はセッションと関係する。

(3) メールマガジン

基金事業の最新情報、「日韓文化交流カレンダー」のイベント紹介などを、ウェブ上等から登録した希望者と、賛助会員等を対象に、月 2 回ほどのペースで配信している。賛助会員以外のメールマガジン登録者数は 1768 名（平成 31 年 3 月 26 日現在）。

配信数

第 301 号（平成 30 年 4 月 6 日）	1800	第 314 号（平成 30 年 10 月 26 日）	1850
第 302 号（平成 30 年 4 月 20 日）	1802	第 315 号（平成 30 年 11 月 9 日）	1853
第 303 号（平成 30 年 5 月 11 日）	1810	第 316 号（平成 30 年 11 月 22 日）	1875
第 304 号（平成 30 年 5 月 25 日）	1810	第 317 号（平成 30 年 12 月 7 日）	1881
第 305 号（平成 30 年 6 月 7 日）	1811	第 318 号（平成 30 年 12 月 21 日）	1883
第 306 号（平成 30 年 6 月 22 日）	1816	第 319 号（平成 31 年 1 月 10 日）	1884
第 307 号（平成 30 年 7 月 6 日）	1822	第 320 号（平成 31 年 1 月 25 日）	1887
第 308 号（平成 30 年 7 月 20 日）	1827	第 321 号（平成 31 年 2 月 8 日）	1890
第 309 号（平成 30 年 8 月 3 日）	1830	第 322 号（平成 31 年 2 月 22 日）	1891
第 310 号（平成 30 年 8 月 24 日）	1833	第 323 号（平成 31 年 3 月 11 日）	1895
第 311 号（平成 30 年 9 月 7 日）	1836	第 324 号（平成 31 年 3 月 26 日）	1897
第 312 号（平成 30 年 9 月 28 日）	1839		
第 313 号（平成 30 年 10 月 12 日）	1842		

(4) ツイッター

140 文字以内の「ツイート tweet」と称される短文を投稿できる情報サービスを利用し、基金ホームページや「日韓文化交流カレンダー」で更新された情報をツイッターで登録者に発信している。登録者数は 629 名（平成 31 年 4 月 15 日現在）。

(5) フェイスブック

Facebook Inc が運営するソーシャルネットワーキングサービスを利用し、青少年交流事業の活動の様子などを写真や文章を用いてタイムリーに情報を発信している。登録者数は 354 名（平成 31 年 4 月 15 日現在）。

3. 青少年交流事業（中学生訪日・訪韓事業）

日本と韓国の中学生を相手国へ相互派遣し、相手国の中学生と交流し、互いの伝統文化や社会に接する機会を通じて相互理解を深め、将来の日韓間の国民的な友好協力関係の基礎を築くことを目的とする事業。

（ｉ）招聘　　合計　1 件　29 名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名	人数	期　間
1	韓国青少年訪日団（第 4 団）	29	平成 30 年 11 月 8 日～11 月 14 日

（ⅱ）派遣　　合計　1 件　30　名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名	人数	期　間
1	日本青少年訪韓団（第 4 団）	30	平成 30 年 11 月 4 日～11 月 10 日

第 6 特別会計（対日理解促進交流プログラム：JENESYS 2016）

アジア大洋州等の青少年をはじめとする幅広く優秀な人材を招聘、派遣して、日本に対する理解促進を図り、また知日派を発掘して日本の魅力等を積極的に発信せしめる等、我が国の外交基盤を強化するための事業。

1. 青少年交流事業

（1）企画競争公募事業

「JENESYS2016」の趣旨にそった事業を計画・立案、実施する団体を公募し、審査を経て実施団体を選定した。

招聘　　合計　2 件　46 名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名 （実施団体名）	人数	期　間
1	福島韓国交流訪問団 （福島を正しく伝えよう！実行委員会）	25	平成 30 年 8 月 20 日～29 日
2	韓国高校生の九州における日韓歴史文化交流探訪（学校法人　福岡女学院）	21	平成 31 年 1 月 17 日～26 日

第 9 特別会計（対日理解促進交流プログラム：JENESYS 2017）

第 6 特別会計同様、アジア大洋州等の青少年をはじめとする幅広く優秀な人材を招聘、派遣して、日本に対する理解促進を図り、また知日派を発掘して日本の魅力等を積極的に発信せしめる等、我が国の外交基盤を強化するための事業。

1. 青少年交流事業

（1）大学生派遣　　合計　1 件　32 名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名	人数	期　間
1	大学生訪韓団（交流使節団）	32	平成 31 年 3 月 7 日～3 月 16 日

（2）企画競争公募事業

「対日理解促進交流プログラム（JENESYS2017）」の趣旨にそった事業を計画・立案、実施する団体を公募し、審査を経て実施団体を選定した。

（ｉ）招聘　　合計　1 件　22 名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名 （実施団体名）	人数	期　間
1	韓国青年招へい事業 ～ 食の安全，日本食の魅力体験 ～ （一般財団法人日本国際協力センター）	22	平成 30 年 11 月 5 日～13 日

（ⅱ）派遣　　合計　1 件　22 名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名 （実施団体名）	人数	期　間
1	生涯スポーツで街を元気に！地域づくり魅力発信事業	22	平成 30 年 11 月 21 日～30 日

	（公益社団法人北海道国際交流・総合協力センター）		

第 10 特別会計（対日理解促進交流プログラム：JENESYS 2018）

第 6・第 9 特別会計と同様、アジア太平洋等の青少年をはじめとする幅広く優秀な人材を招聘・派遣して、日本に対する理解促進を図り、また、知日派を発掘して日本の魅力等を積極的に発信せしめる等、我が国の外交基盤を強化するための事業。

1. 青少年交流事業

（1）大学生･教員、高校生等

（ｉ）招聘　　合計　22 団体 607 名（団長･引率を含む）

No.	団　体　名	団体数	人数	期　間
1	日韓学術文化交流事業訪日団（第 1～4 団）	4	80	平成 30 年 6 月 5 日～6 月 14 日
2	韓国大学生訪日団（第 1～4 団）	4	80	平成 30 年 6 月 26 日～7 月 5 日
3	韓国青年訪日団（第 1 団）	1	36	平成 30 年 7 月 10 日～7 月 19 日
4	韓国青年訪日団（第 2 団）	1	32	平成 30 年 7 月 24 日～8 月 2 日
5	韓国大学生訪日団	1	30	平成 30 年 9 月 14 日～9 月 23 日
6	韓国青年訪日団（第 3 団）	1	12	平成 30 年 9 月 20 日～9 月 27 日
7	韓国青少年訪日団（第 1～2 団）	2	98	平成 30 年 10 月 18 日～10 月 24 日
8	国際ポエトリー交流プログラム（IPEP）訪日団	1	12	平成 30 年 10 月 29 日～11 月 6 日
9	韓国青少年訪日団（第 3 団）	1	69	平成 30 年 11 月 8 日～11 月 14 日
10	アジア国際子ども映画祭参加訪日団	1	10	平成 30 年 11 月 20 日～11 月 26 日
11	韓国青年訪日団(第 4～5 団)	2	60	平成 31 年 1 月 16 日～1 月 25 日
12	韓国青年訪日団(第 6 団)	1	30	平成 31 年 2 月 13 日～2 月 22 日
13	韓国青年訪日団(第 7～8 団)	2	58	平成 31 年 2 月 19 日～2 月 28 日

（ⅱ）派遣　　合計　9 団体 334 名（団長･引率を含む）

No.	団　体　名	団体数	人数	期　間
1	日韓学術文化交流事業訪韓団（第 1～2 団）	2	39	平成 30 年 8 月 28 日～9 月 6 日
2	大学生訪韓団	1	30	平成 30 年 9 月 4 日～9 月 13 日
3	大学生訪韓団（スポーツ交流）	1	17	平成 30 年 9 月 5 日～9 月 10 日
4	日本青少年訪韓団（第 1～2 団）	2	100	平成 30 年 10 月 21 日～10 月 27 日
5	日本青少年訪韓団（第 3 団）	1	68	平成 30 年 11 月 4 日～11 月 10 日
6	大学生訪韓団（第 1 団）	1	40	平成 31 年 3 月 5 日～3 月 14 日
7	大学生訪韓団（第 2 団）	1	40	平成 31 年 3 月 19 日～3 月 28 日

（2）企画競争公募事業

「対日理解促進交流プログラム（JENESYS2018）」の趣旨にそった事業を計画・立案、実施する団体を公募し、審査を経て実施団体を選定した。

（ｉ）招聘　　合計　3 件　75 名（団長･引率を含む）

No.	事　業　名 （実施団体名）	人数	期　間
1	第 25 回日韓高校生交流キャンプ （一般社団法人日韓経済協会）	35	平成 30 年 7 月 29 日～8 月 2 日
2	韓国大学生招へい・交流プログラム「つなぐ」 （公益財団法人大阪国際交流センター）	20	平成 30 年 11 月 2 日～11 日
3	水原市大学生訪日事業 （静岡市国際交流協会）	20	平成 31 年 1 月 10 日～19 日

以上